

■根には何かの作用を起こす能力や機能をもった物、という意味があります。

植物は根から水分や養分を吸って育ちます。人間の性器を男根、女根と呼ぶのも、生み出す力があるからです。また人の生まれつきの性、持ち前を根性といいます。

眼・耳・鼻・舌・身

人の感覚を起こさせる器官は、眼・耳・鼻・舌・身です。これを五根といいます。これらの器官から得られる情報により、いろいろな思いが生まれます。

この思い(意)を五根に足して六根と呼びます。そして五根それぞれが起こすさまざまな欲望を、断ち切って清らかな心(意)を得たい、と願う言葉が六根清浄です。

山に入り修行する人達は、日常生活で汚れた六根を、清らかな六根に近づけるため、六根清浄の言葉を繰り返し唱えながら登ります。

お経に説かれている六根

六根は般若心経にも出てきますが、六根清浄によるご利益について説かれているのは法華経です。法華経は28の話で構成されています。その中の19番目の話の最初に登場します。



妙法蓮華経法師功德品第十九

爾時仏告常精進菩薩摩訶薩。
若善男子善女人。受持是法華経。
若読若誦若解説若書写。
是人當得八百眼功德。
千二百耳功德。
八百鼻功德。
千二百舌功德。
八百身功德。
千二百意功德。
以是功德莊嚴六根皆令清浄。
.....

左の文を訳すと

妙法蓮華経 法師功德品 第十九

お釈迦様は常精進菩薩という名前の人におっしゃいました。
法華経を大切に、読書、暗唱、解説、書写する人は、
800の眼の功德
1200の耳の功德
800の鼻の功德
1200の舌の功德
800の身の功德
1200の意の功德
を得るでしょう。この功德によって、六根は莊嚴にして清浄になります。

五種法師 ごしゅほっし

法華經を大切に守る人達を五種法師と呼びます。五種は受持じゅじ、読書、暗唱、解説、書写です。この中で一番重視されるのは受持です。

受持とはお経に説かれている教えや戒律を守ることです。

六つの**功德**は次のようになります。

- 眼の功德 先入観なく物事が正しく見える。
- 耳の功德 微妙なところまではっきりと捉えられ真意が分かる。
- 鼻の功德 さまざまな香りをかぎ分けることができる。
- 舌の功德 食事がすべておいしく感じられる。また言葉が人を感動させる。
- 身の功德 清らかな身のために、美しく健康になる。
- 意の功德 清らかな心のために、多くの人が会うことを願うようになる。